

平成27年第1回(2月)掛川市議会定例会  
一般質問発言順序

- |   |     |       |
|---|-----|-------|
| 1 | 5番  | 窪野愛子君 |
| 2 | 17番 | 榛葉正樹君 |
| 3 | 10番 | 野口安男君 |
| 4 | 12番 | 草賀章吉君 |
| 5 | 19番 | 鷺山喜久君 |
| 6 | 11番 | 大場雄三君 |
| 7 | 8番  | 渡邊久次君 |
| 8 | 15番 | 山本行男君 |

平成27年第1回(2月)掛川市議会定例会  
一般質問発言順序(予定)

---

3/10 AM 5番 窪野愛子君

17番 榛葉正樹君

-----  
PM 10番 野口安男君

12番 草賀章吉君

---

3/11 AM 19番 鷺山喜久君

11番 大場雄三君

-----  
PM 8番 渡邊久次君

15番 山本行男君

---

## 一般質問通告要旨

議席番号	5	氏名	窪野愛子	質問の方式 (一問一答・一括)
------	---	----	------	-----------------

### 1 効率的・効果的な移動手段の確保について (答弁：市長)

市内移動の公共交通機関としては天竜浜名湖鉄道と路線バスがあるが、利用者は減少の一途で、近年非常に厳しい経営状況である。本市では特に交通弱者対策として、廃止された路線バスを自主運行バスに切り替え、利用者の利便性向上と市民生活の移動手段の確保に努めてきた。多様な市民ニーズの高まりと共に「バスロケーションシステム」の実証実験なども行ったが、バス利用者支援策の抜本的な見直しや新たな施策展開が喫緊の課題ではないか。

- (1) 平成22年12月の「掛川市公共交通あり方検討委員会」最終答申に基づいた改善内容は、どのような効果があったのか伺う
- (2) 市民意識調査開始以降、交通の不便を感じている市民の割合は、常に6割ほどであるがその要因は何か。また、市民の満足度を高める今後の対応を伺う
- (3) 策定される第2次掛川市総合計画において、都市基盤分野（地域公共交通）の計画に新たな施策展開はあるのか伺う

### 2 持続可能な社会の構築を目指した行財政改革について (答弁：市長)

松井市政第1期の公約として掲げられた市民による「行財政改革審議会」もすでに第3期がスタートし間もなく1年となる。第1期、第2期の審議会を経て、抜本的な行財政改革が実行されているのか。先行き不透明な社会情勢、人口減少や少子高齢化社会はすでに避けては通れない事態である。協働によるまちづくり推進のためには、市民とともになお一層の行財政改革への取り組みが必要ではないか。

- (1) 松井市政が目指す行財政改革とはどのようなものか伺う
- (2) 「行財政改革審議会」第1期、第2期の評価と第3期の進捗について伺う
- (3) 公共施設のマネジメントは、今後の維持管理や運営の考えから経営の考えに立脚した対応が必要と思うが、見解を伺う

## 一般質問通告要旨

議席番号	17	氏名	榛葉正樹	質問の方式	(一問一答)・一括
------	----	----	------	-------	-----------

### 1 地方創生「総合戦略」について

(答弁：市長)

掛川市にとって少子高齢化・人口減少・人口流出は喫緊の課題であり、既に市では「地域創生本部」を立ち上げ対応を進めているとのことである。若者の人口流出を減少させ定住を促進するためには、若者や子育て世代の意見や感覚を取り入れる必要があり、そのための組織構築は必要不可欠だと考える。さらに、充実した施策や情報を確実に伝えるためには戦略的にシティプロモーションを推進する必要がある。

- (1) 若者の転入、定住促進が大きな課題となっているが、市長が考える若者が住みたいまちのイメージとは何か。また、若者がもつ掛川市のイメージをどのように感じているのか伺う
- (2) 全庁体制で目標に向かうためには、各部局間や世代間の温度差を解消して、一人一人の意識を高めていく必要がある。今後、どのように全庁体制をまとめ上げていくのか見解を伺う
- (3) 若者や子育て世代に多く住んでもらう施策提案には若手の意見や感覚を取り入れることが必要と考える。今後、総合戦略の策定にあたり「庁内若手検討チーム」等を発足させるなどして若手の意見を総合戦略に反映させる仕組みを構築してみたいか伺う
- (4) 庁内体制を整え、資源、施策を整理して効果的情報発信を行うためには、シティプロモーションの推進が必要だと考える。これまでのシティプロモーションに対する考えや取り組みはどうだったか。そして、今後のシティプロモーションを定住人口、交流人口の観点からどのように展開していくのか伺う
- (5) シティプロモーションの推進において、中心的な役割を担うセクションを設置することも必要と考えられるが見解を伺う
- (6) 掛川市独自の就職支援施策として、市内の事業所や個人事業者と連携し、企業情報・求人情報とあわせて掛川市の情報も発信できるホームページ等を開設し、全国に向け両者を一緒にアピールできる仕組みを考えられないか見解を伺う

## 一般質問通告要旨

議席番号	10	氏名	野口安男	質問の方式 (一問一答・一括)
------	----	----	------	-----------------

### 1 「地域創世元年」の企業誘致（IT企業、観光企業）について （答弁：市長）

「市長施政方針」で述べている地域経済の活性化と経済循環のなかで、産業基盤の強化と経済循環やICTの利活用の促進が重点施策となっている。

そこで、企業や地域と連携を図り、企業誘致を一層推進していく必要があると考え、次の点について伺う。

- (1) 今後の企業誘致はどのような考え方で進めて行くのか伺う
- (2) IT企業や観光企業の誘致について、どのように考えるか伺う
- (3) 企業誘致の場所について、上西郷工業団地ほかと述べているが、「ほか」というのは、どのようなところか伺う
- (4) 若者応援宣言企業を積極的に誘致すべきと思うが所見を伺う

### 2 「道徳教育」の教科化について （答弁：教育長）

「中央教育審議会」は、現在の道徳の時間を教科に格上げし、検定教科書と評価を導入するよう文部科学大臣に答申した。掛川市では、「なるほど なっとく 金次郎さん」や「この人に学びたい～掛川の偉人ものがたり～」の副読本を刊行し、掛川市ならではの道徳教育をすすめてきている中、道徳が教科になることについて、教育長の考えを伺う。

- (1) 現在の道徳教育はどのような成果と課題があるか伺う
- (2) 道徳主任がどのような活動をしているか伺う
- (3) 「金次郎と掛川の偉人検定」に期待するものは何か伺う
- (4) 道徳の研究指定が「生き方」としての研究指定になってから、どのような成果があるのか伺う
- (5) 道徳の時間が教科になった場合、教員の資質向上についてどのような方策がとられるのか伺う
- (6) 教科化について教育長はどのように捉えているか伺う

## 一般質問通告要旨

議席番号	12	氏名	草賀章吉	質問の方式	(一問一答)・一括
------	----	----	------	-------	-----------

### 1 平成26年4月の市議会「政策提言」に対する取組みについて

(答弁：市長)

議会では平成25年4月1日施行の議会基本条例に基づき、「命と暮らしを守る水、上水道」「中東遠総合医療センターを核とした地域医療の充実を」という2つのテーマを設定し、市民への議会報告会、全議員による政策討論会を経て、水道事業と中東遠総合医療センターの充実に係る提言を市長にさせていただきました。

既に対策を講じていただいていることも多々あるが、この一年での取組みと更なる課題について伺う。

#### (1) 水道事業に係る提言について伺う

- ① 新「掛川市水道ビジョン」の早期策定
- ② 計画的な管路の更新と耐震化の推進
- ③ 大井川広域水道企業団の責任水量制と二部料金制の見直し
- ④ 水道事業の合理化と広域化による経費削減の促進
- ⑤ 水道業者の専門技術者の育成と水道事業所の技術職員の養成
- ⑥ 簡易水道と飲料水供給施設の維持
- ⑦ 地下水の保全・活用のための条例の検討
- ⑧ 大須賀区域の水利用の可能性の検討

#### (2) 中東遠総合医療センターの充実に係る提言について伺う

- ① 事務局体制の強化支援
  - ア 病院からの情報発信の充実
  - イ 事務局は、病院と両行政・議会・市民をつなぐ重要な役割がある
- ② 運営会議のあり方
- ③ 病院と市民をつなぐ活動を行政主導で実施すること
- ④ 経営と医療の責任分担制の検討
- ⑤ 病院への交通アクセスのさらなる検討
- ⑥ お茶の健康効能について病院との連携

### 2 地方創生・協働のまちづくりについて

(答弁：市長)

人口減少社会に突入し、掛川市は自然減に加え社会減が数年続いている。掛川市の将来像を描くに当たっては、従来の発想を大きく転換し根本的にデザイ

ンし直すことが必要だと考える。

平成28年度から始まる第2次掛川市総合計画への反映、市政運営の施策について下記事項は「地方創生・協働のまちづくり」の観点から極めて重要と考え市長の見解を求める。

(1) 市民活動日本一の取組みについて

- ① 自治基本条例を施行し、今定例会へ「協働のまちづくり推進条例」が上程され、地区まちづくり協議会設立に向けた動きから、市民活動は協働のまちづくりのための全ての土台と位置づけるとしているが、市民活動日本一の取組みについての総括を伺う
- ② 市民が自発的に活動を行う「テーマコミュニティ」の掛川市の実態と評価及びまちづくり活動に果たす役割について伺う

(2) 人づくりについて

- ① 教育委員会制度改革により市長の教育に対する権限責任が重大となるが、掛川市の将来に向けて何をどう変えていくか方針と決意を伺う
- ② 掛川市の社会人教育は、どの部署が、どのような市民層を対象に、どのような内容のものをするのか、またその際の課題を伺う

(3) 若者を中心とした居住促進について

- ① 若者の人口流出が著しい掛川市としては、若者の居住促進が急務である。その実態及び要因をどのように捉え、どのような対策を検討しているか伺う
- ② 交通の利便性が高い掛川駅周辺を若者が多く住む多世代居住のエリアへ意図的に誘導をすべきと考えるが見解を伺う

(4) 協働のまちづくりのパートナーとしての農協の役割について

今回の改革の概要とその評価、そして今後期待できることは何かを伺う

(5) 地方創生の大切な視点は地域資源の活用による活性化である。掛川市の地域資源はどのようなことがあるか考えを伺う

## 一般質問通告要旨

議席番号	19	氏名	鷺山喜久	質問の方式 (一問一答・一括)
------	----	----	------	-----------------

### 1 市民の生涯スポーツ意欲の向上について (答弁：市長)

子どもからお年寄りまで、スポーツを楽しむことは健康の維持や医療費削減にもつながる。そこで、生涯スポーツの普及・推進について伺う。

- (1) 市の「スポーツ推進計画」は策定されているのか伺う
- (2) 掛川市総合計画（後期基本計画）に定めた生涯スポーツの実践普及には、週1回以上スポーツ・レクリエーションに取り組む市民の割合を平成28年には50%を目標値としているが、現状について伺う
- (3) 生涯スポーツの普及について具体的にはどのようにされるか伺う

### 2 本市は国の「地方創生」と同じ軌軸でよいのかについて (答弁：市長)

「増田レポート」「地方創生」の奥にあるものは、自治体を集約化して地方中枢拠点都市づくりをして道州制を進める条件整備ではないかと考える。

- (1) 市長は「地方創生」（まち・ひと・しごと創生）の根底をどうみるか伺う
- (2) 雇用の場を創出するために企業誘致をしているが、若者雇用や協働のまちづくりに理解を示し、市に貢献し、社会的責任を果たす企業を誘致する考えがあるか伺う

### 3 中東遠総合医療センターの現状について (答弁：市長)

全国に先駆けて2市の公立病院を統合して中東遠総合医療センターができた。今定例会に上程された平成27年度一般会計予算案では、掛川市から10億円余の運営負担金が計上されている。利用者から良い声、悪い声を聞くが現状をどう捉えているのか伺う。

- (1) 医師数と看護師数について、開院時の目標数と比較して現状はどうか伺う
- (2) 平成25年6月定例会の一般質問において、外来・検査・会計等の待ち時間の短縮に鋭意努力されていることを伺ったが、その後の状況を伺う
- (3) 診療科目がありながら他病院で手術を受けた方もいると聞かすが、病院側から報告を受けているのか伺う



(4) 平成25年度収支決算及び平成26年度収支決算見込(赤字、黒字)について伺う

## 一般質問通告要旨

議席番号	11	氏名	大場雄三	質問の方式	(一問一答)・一括
------	----	----	------	-------	-----------

### 1 「健康日本一」について (答弁：市長)

少子高齢化が進む中、社会保障費が伸び続けることが予測され、今後は予防医療に取り組むとともに保険給付費を抑制することが求められる。その施策について伺う。

- (1) 国保の医療費の中で調剤費の占める割合を伺う
- (2) 国保の高額な医療費について、一ヶ月に支払った医療費の最高額を伺う
- (3) 掛川市ではどのような介護予防事業を展開しているのか伺う
- (4) 介護予防事業においてどのような課題があるのか伺う
- (5) 市民の健康への意識高揚のために、市役所内に血圧計などの簡易測定器具などを配備する考えはないか伺う

### 2 都市計画における道路整備事業について (答弁：市長)

「まち・ひと・しごと」を掲げた地方創生の中で道路整備の役割は重要である。市内においては今年度主要路線が2本開通した。今後も新設される道路により様々な効果が期待される場所である。そこで本市の幹線道路整備事業に伴う土地利用について伺う。

- (1) 市道掛川駅梅橋線の新設に伴い交通の流れが大きく変わることが予測されるが、土地利用をどう考えるのか伺う
- (2) 市道桜木中横断線の進捗状況と開通後の効果について伺う
- (3) 一般県道磐田掛川線4車線化計画に伴うその効果と今後の本市の対応について伺う
- (4) 梅橋の通行止めについて、現在どのようなことが検討されているか伺う

## 一般質問通告要旨

議席番号	8	氏名	渡 邊 久 次	質問の方式 (一問一答・一括)
------	---	----	---------	-----------------

### 1 掛川市子ども・子育て支援事業計画について (答弁：市長)

市長は今定例会の施政方針において、政策の新たな重点項目として「教育・文化」「健康・子育て」「環境」の3つの日本一を掲げられた。とりわけ「子どもの健やかな育ちを保障し、子どもの最善の利益を守ることは社会全体の責務である」という立場から「掛川市子ども・子育て支援事業計画」を策定された。喫緊の課題となっている少子化対策の要でもある子ども・子育て支援事業の推進について伺う。

- (1) 現在の待機児童数（国定義、実質待機）の状況について伺う
- (2) 認可保育園で、本年度途中に増加した0歳児等の数と、それに対応するための保育士確保の状況について伺う
- (3) 掛川協働保育園（認可外）に通う児童数と保護者への負担軽減補助の状況を伺う
- (4) 旧掛川市から進めてきた幼保一元化の成果と課題、認定こども園への移行について伺う
- (5) 大東・大須賀区域の幼稚園、保育園再編整備計画の進捗状況について伺う
- (6) 現在運営されている26の放課後児童クラブの中で、新しい運営基準（1人あたり1.65平米以上、40人以下）を満たすことが困難なクラブへの対策を伺う

### 2 ごみ処理有料化とごみ減量対策の推進について (答弁：市長)

有料化についての当局の説明では、「有料化による収入は、ごみ処理経費の一部として充当し、特に、ごみ分別情報の適切な周知やごみ集積所の充実等、さらなるごみ減量と適切な分別等のための施策の財源として使わせていただきます。」ということであったが、4月からのごみ減量対策の推進について伺う。

- (1) 一般廃棄物の排出量を削減させるために、平成27年度にどのような施策を講じるのか伺う
- (2) 新指定袋は4月初旬から販売することになっているが、旧指定袋も3月末までは販売されることになっているので、販売に関して混乱はないのか伺う
- (3) 「使用期間満了後の新指定袋との交換は行いません。」ということだが、たとえわずかな金額でも有価物を無にしないように、併用期間中に余った旧指

定袋を新指定袋と交換できるような方策をとることができないのか伺う

## 一般質問通告要旨

議席番号	15	氏名	山本行男	質問の方式 (一問一答・一括)
------	----	----	------	-----------------

### 1 プレミアム商品券の発行について (答弁：市長)

国の平成26年度補正予算で創設された「地域住民生活等緊急支援のための交付金」を活用したプレミアム商品券発行への動きが近隣市町を含め各地で進んでいる。

景気回復の流れを地方に届けるための経済対策の目玉として、また地域の商店街に活気をもたらすために、商工会議所や市民からこの交付金活用への期待が高まっている。

- (1) 本市もこの交付金を活用してプレミアム商品券の発行を考えているか伺う
- (2) もし発行する場合、商品券の総額、プレミアム率、発行時期を伺う
- (3) お千代小判商品券実施時の経済効果を市長はどのように評価しているか伺う

### 2 投票率低下傾向と選挙権年齢18歳以上への引き下げについて (答弁：市長)

衆議院議員選挙の投票率が2回続けて過去最低を更新している。この傾向は全国の地方選挙にも顕著に表れ、本市も例外ではない。このような流れが続けば民主主義の危機といってよい。どうすれば有権者が選挙への関心を高めることができるだろうか。

一方、今国会では公職選挙法改正案が提出され、選挙権年齢を18歳以上に引き下げる方向で検討している。可決成立した場合、早ければ平成28年夏の参議院議員選挙から適用される予定である。これらを踏まえて伺う。

- (1) 投票率低下傾向をどのように考えているか、また、投票率を回復させる方法はあるか伺う
- (2) 選挙権年齢18歳以上への引き下げ法案についての考えを伺う